

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

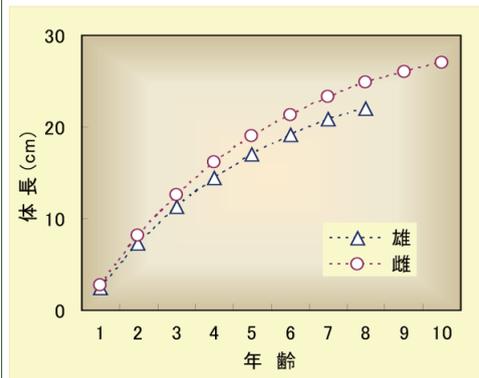
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳
 成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
 産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2~5月(3~4月が盛期)、産卵場は水深50~90m付近
 索餌期・索餌場: 夏~秋季に沖合の陸棚上
 食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
 捕食者: 不明

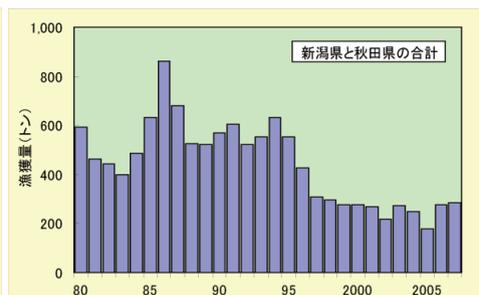
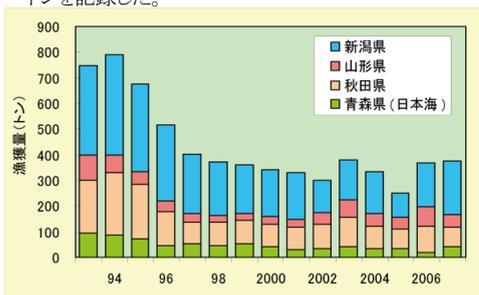


漁業の特徴

日本海北部でマガレイを対象としている主要漁業は、底びき網漁業と刺し網漁業である。その比率は、漁獲量(2007年)でみると底びき網漁業で66%、刺し網漁業で24%となっていた。県別には、新潟県と秋田県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

1980年以降の資料がある新潟県と秋田県の漁獲量の推移をみると、1986年と1994年に漁獲量のピークが見られ、その後急落した様子が分かる。全域の値でも、1994年のピーク以降減少傾向が続き、2005年には4県で251トンとなった。2006年には漁獲が急増し368トンとなった。2007年には、秋田・山形両県で前年を下回ったが、4県合計では378トンを記録した。

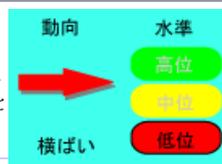


資源評価法

マガレイは農林統計の全国集計対象種ではないので、系群全体の漁獲量を正確に把握する統計データが無い。したがって、日本海北部4県の漁獲量の経年変化を用いて資源の評価を行った。資源の動向を判断する参考として、沖合底びき網漁業、新潟県の板びき網漁業及び幼稚稚魚分布調査の結果を用いた。

資源状態

漁獲量および底びき網等のCPUE等の経過から、現在の資源状態は1980年以降では低位水準にあると判断される。2006年には漁獲量が急増し、底びき網のCPUE(または資源密度指数)がやや高めの値となった。2007年にも新潟県ではこの傾向が引き続き見られたが、男鹿北部の沖合底びき網では資源量指数が急落し、秋田県と山形県の漁獲量も減少した。これらのことから、2007年時点では資源は横ばい傾向にあったと判断した。2006年と2007年の(特に新潟県における)漁獲増は加入の良かった2003年級と2004年級によるもので継続性がないことから、今後の資源状態の動向に注意が必要である。



管理方策

2007年時点での資源水準は低位で横ばい傾向にあると判断された。本種は底びき網や刺し網で主に漁獲されるが、必ずしも主対象の魚種でないことが多い。その実施は困難であるが、漁獲量の上限をある程度おさえることで、特に3歳魚の生き残りを増やし、翌年の漁獲加入年級への負担を減らすとともに、産卵への加入を少しでも増やすことが必要である。また、産卵親魚をより積極的に確保するため、実効ある全長制限を導入することが望ましい。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	230トン	0.7Cave3-yr	—	—
ABCTarget	190トン	0.8・0.7Cave3-yr	—	—

- 10トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 漁獲量等の情報から、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される

- 2008年以降、新潟県では新規加入年級にあまり期待できない

管理方策のまとめ

- 資源水準の回復と維持のためには、漁獲量の上限をある程度おさえることで、漁獲と産卵に加入する3歳魚の生き残りを増やすことが必要
- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

資源評価は毎年更新されます。